

2012年 1月6日

博士学位論文審査報告書

| | |
|-------|--|
| 大学名 | 早稲田大学 |
| 研究科名 | スポーツ科学研究科 |
| 申請者氏名 | 高泉 佳苗 |
| 学位の種類 | 博士（スポーツ科学） |
| 論文題目 | 食事バランスガイドの普及が食行動に及ぼす効果 Effect of Dissemination of the Japanese Food Guide Spinning Top on Eating Behavior |
| 論文審査員 | 主査 早稲田大学教授 中村 好男 教育学博士（東京大学） 副査 早稲田大学教授 荒尾 孝 博士（医学）（順天堂大学） 副査 早稲田大学准教授 岡 浩一朗 博士（人間科学）（早稲田大学） |

本論文の主旨は、次の通りである。すなわち、本論文の背景として、最近の公衆栄養活動では、ヘルスコミュニケーションを活用した集団レベルの戦略の1つとして、キャンペーンによる食生活の促進を目指した公衆栄養活動が実施されている。その戦略の有効性は、諸外国の先行研究によって確認されているが、わが国における有用性は確認されていない。本論文は、わが国の公衆栄養活動におけるキャンペーン戦略の有用性を確認するために、農林水産省が実施した食事バランスガイドの普及キャンペーンの効果について検討することを目的としている。

本論文は、第1章から第3章で構成されている。

第1章「緒言」では、公衆栄養活動におけるヘルスコミュニケーション戦略としてのキャンペーンの位置付けを概説した上で、キャンペーン評価の枠組みに従って国外の先行研究を整理し、食事バランスガイド普及キャンペーンの普及効果を評価することの必要性について言及している。具体的には、食事バランスガイドが普及ターゲットである、肥満などの健康リスクを有する者に認知されているかどうかを検討することの必要性と、食事バランスガイドの認知による食行動への効果を明らかにすることの必要性について言及し、これら2点を研究目的と設定している。

第2章「キャンペーンによる食事バランスガイドの普及効果」では、食事バランスガイドの認知状況と人口統計学的要因および健康特性との関連性を縦断的に検討し（研究Ⅰ）、肥満や運動不足といった健康リスクを有する集団に食事バランスガイドが認知されていることを確認した。また、男性の低所得者、女性の未婚者、無職者、高学歴者に、食事バランスガイドを認知していない者が多いことを示した。研究Ⅱでは、食事バランスガイドの認知による食行動への影響メカニズムを検証した上で（分析Ⅰ）、食事バランスガイドの認知状況の経時変化と食行動との関連を縦断的に検討している（分析Ⅱ）。その結果、食事バランスガイドを認知することは、食行動の向上に影響していることを明らかにし、さらに、食事バランスガイドを認知していない者は、健康的な食行動の実践が少ないことを示した。

以上の知見を踏まえて、第3章「総合論議」では、食事バランスガイドの普及キャンペーンの事例を基に、わが国におけるヘルスコミュニケーションを活用した公衆栄養活動の方策について提案している。まず、食事バランスガイドのような食情報を対象に届け、認知を促進するための情報発信は、対象集団の環境に即した発信方策が必要であることを提案した。次に、食行動を促進するための有効な食情報の作成には、視覚的メッセージ性が重要であることを提案した。最後に、農林水産省によって実施された食事バランスガイドのキャンペーンの展望として、施策としての継続的な公衆栄養活動の長期的な戦略について言及した。

本論文は、ヘルスコミュニケーションという観点から公衆栄養活動を評価した研究であり、わが国で初の試みと位置づけることができる。従って、本論文は、スポーツ科学領域の中でも、健康づくりに関する研究分野に、多大な貢献をし得るものであると考えられる。本論文で得られた知見の中でも、特に評価すべき点は、わが国において、集団を対象とした公衆栄養活動によるキャンペーンの効果を実行レベルで明らかとできた点である。健康づくりにおいて、適切な食生活を実現するためには、食行動の変容が必要不可欠である。本研究により、キャンペーンによる集団アプローチが、国民の食行動に影響を及ぼすことができることを確認した。この結果は、キャンペーンを活用した公衆栄養活動がわが国の健康づくりに有効であることを提起するものである。

なお、本論文に含まれる研究の一部は、末尾記載のように学術誌上で刊行されており、当該分野において、すでに一定の評価を受けているとみなすことができる。

以上のことから、本論文は、健康増進に関連するスポーツ科学分野の発展に寄与するものと判断し、博士（スポーツ科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

【関連論文】

- ・ 高泉佳苗, 中村好男. 農林水産省による食事バランスガイド普及啓発の取り組み. スポーツ産業学研究, 20: 139-142, 2010.
- ・ Takaizumi K, Harada K, Shibata A, Nakamura Y. Influence of awareness of the Japanese Food Guide Spinning Top on eating behavior and obesity. Asia Pac J Clin Nutr, 20: 95-101, 2011.
- ・ Takaizumi K, Harada K, Nakamura Y. Impact of Awareness of the Japanese Food Guide Spinning Top on Eating Behavior. Public Health Nutrition, 2011 Aug 23:1-8. [Epub ahead of print].
- ・ 高泉佳苗, 原田和弘, 中村好男. 食事バランスガイドの認知レベルの経時変化と人口統計学的特徴および健康特性との関連. 日本公衆衛生雑誌, 58: 948-958, 2011.

以 上